

使い勝手の良さを追求し 多職種間の情報共有を促進

機能強化型在宅診療向けに特化 写真添付で正確に情報伝達

在宅医療においては、外来医療以上に多職種との連携が求められる。連携にあたっては患者の疾患や家族情報だけではなく、日々の診療内容や患者・家族からの要望なども共有する必要がある。だが、たとえば医師以外の職種にとって「医師は忙しそうだから電話しにくい」など、相手への気遣いが裏目に出て、情報共有が遅々として進んでいないのが現状だ。

レセプトコンピュータや電子カルテなど医療機関のITシステムを手がけるラジエンスウエア株式会社は、こうした現状を改善するために開発したのが在宅患者支援システム「MUCS/care」だ。対象は機能強化型在宅療養支援診療所（在宅診療）だ。同社の中嶋吉男代表取締役は経緯を振り返る。

「以前、医師会向けに同様のシステムをつくっていましたが、医師会の会員のなかで実際に多職種で在宅医療に携わっている医師は1割ほどしかいない場合があります。そうなると、医師会が費用を負担してシステムを導入することに反対する医師も少なくありませんでした」

そこで、2012年度診療報酬改定で新設された機能強化型在宅診療向けに特化したシステム「MUCS/care」の開発に乗り出すことになったという。

「システムの利用にはコストがかかりますが、機能強化型在宅診療の届け出をすれば診療報酬の点数が上がるので、導入費用は捻出できると考えました。また、連携を図るには情報共有が課題となるためニーズもあると見込みました」と、中嶋代表取締役は説明する。

このシステムは医師、歯科医師、

薬剤師、ケアマネジャー、ホームヘルパーなど多職種が、患者情報やそれぞれが訪問する日程を入力するカレンダー、訪問記録などを共有できるようにしている（図1、2）。

「介護職には医師に伝えたいことがあっても診療中は連絡しにくいというもどかしさがあるようですが、このシステムを使えば、『患者さんの情報を入力したので確認してください』と、医事スタッフに伝言を残せば済みます」

一方、医師は診療の合間に介護職による患者の訪問記録をチェックすれば、リアルタイムで状態を把握できる。

同システムは介護職との間だけではなく、ほかの職種とのやり取りにおいても効果を発揮する。たとえば、薬剤師には患者に渡した薬を人力する欄が設けられている

ため、ジェネリック医薬品を選んだ場合、医師はそれがすぐにわかる。患者に医師と歯科医がそれぞれ薬を処方した際にも、薬剤師は相互作用の有無などをチェックして適切に薬を患者に渡せる。

また、同システム内には患者の口腔内の情報を書き込めるように歯科カルテも掲載（図3）。患者宅を訪れた介護職が口腔内の状態を見て、腫れなど気になる箇所があった場合はその旨を簡単に記入して、連携先の歯科医に伝えることが可能だ。

さらに、このシステムを入れたiPadなどで褥瘡や腫れなどの写真を撮れば正確な情報共有への一助となるので、在宅医療の質の向上にもつながりそうだ。

VPN接続サービスで セキュリティ面も確保

同システムの開発にあたっては、当初はさまざまな機能を搭載する予定だったが、機能が増えれば増えるほど使い勝手が悪くなる。医療職や介護職の声をヒアリングしながら最低限の機能に絞り、普段



「必要最低限の機能に絞り込みました」と話すラジエンスウエア株式会社の中嶋吉男代表取締役

地域包括ケアの実現をサポートする お役立ち地域連携・多職種協働システム

図1 在宅患者を取り巻く多職種による情報共有の仕組み



IT機器を使い慣れていない介護職でも使いこなせるようにしたという。

中嶋代表取締役はこう説明す

図2 患者登録・基本情報入力ページ



「インターネット回線を使わなければ低価格でサービスを提供することができません。セキュリティ面にも注力した。

「患者さんのところには医療職や介護職が入れ代わり立ち代わり訪問しているのに、入力が手間だという理由で情報共有が進んでいませんでした。使い勝手の良いこのシステムを導入することで情報共有が進んでくれるかと思っていました」

「患者さんのところには医療職や介護職が入れ代わり立ち代わり訪問しているのに、入力が手間だという理由で情報共有が進んでいませんでした。使い勝手の良いこのシステムを導入することで情報共有が進んでくれるかと思っていました」

図3 訪問歯科機能ページ



「インターネット回線を使わなければ低価格でサービスを提供することができません。セキュリティ面にも注力した。

「患者さんのところには医療職や介護職が入れ代わり立ち代わり訪問しているのに、入力が手間だという理由で情報共有が進んでいませんでした。使い勝手の良いこのシステムを導入することで情報共有が進んでくれるかと思っていました」

DATA
 埼玉県児玉郡上里町堤
 696-7
 TEL: 0495-35-0081
 FAX: 0495-35-0075
 URL: http://www.radianceware.co.jp/rad/

現場の医療職・介護職の声を反映し、利便性を追求した「MUCS/car e」は、在宅診療を推進するうえで多職種との架け橋となってくれるだろう。

う。

同システムはWindowsやMacのパソコン、iPadなどのタブレット端末、iPhoneなどのモバイル端末など、どんな端末情報もやり取りができるようになった。

同システムの月間利用価格は、医師が月2万円、歯科医師・薬剤師が5000円、介護職が3000円。システムを介することで、これまで電話などでやり取りしていた時間を削減できるため、より多くの在宅患者を診ることが可能となり、実際に在宅患者数を増やしている医療機関も少なくないという。

「患者さんのところには医療職や介護職が入れ代わり立ち代わり訪問しているのに、入力が手間だという理由で情報共有が進んでいませんでした。使い勝手の良いこのシステムを導入することで情報共有が進んでくれるかと思っていました」

同社のデータセンターと利用者の端末は、高いセキュリティシステムを持つソフトバンクテレコム株式会社（V P N (Virtual Private Network)）サービスで接続。登録した端末でしかつながられないため、安心して患者の個人情報もやり取りができるようになった。

「メーカーのなかには端末を限定しているところもありますが、それでは使い勝手が悪くはないかと思われ、どんな端末でも対応できるようにしました」と、中嶋代表取締役は胸を張る。